

新型インフルに備え 抗体マスク注文続々

飯塚の
会社開発



抗体マスクの出荷作業に追われる従業員ら（クロシードで）

新型インフルエンザの大流行に備えて、飯塚市平恒のマスクメーカー「クロシード」（辻政和社長）が開発した「抗体マスク」に、従業員用に備蓄しようとする全国の企業や病院からの注文が相次いでいる。

抗体マスクは、ウイルスの表面の突起を覆って無毒化する働きを持つ抗体をマスク表面に吹き付けているのが特徴。新型に変異する可能性が高いとされる鳥インフルエンザウイルスにも反応するため、新型の感染防止効果が期待されている。

これまで、抗体は無毒化したウイルスをニワトリやウサギに注射し、卵や血液から精製していたが、費用がかさむため大量生産は難しいとされていた。

同社は、京都府立大の塚本康浩教授（獣医病理学）が、ダチョウの卵から大量の抗体を精製する技術を開発したことに着目。従来の手法の約4000分の1の費用で精製できることから、塚本教授が設立したベンチャー（新興）企業から抗体を購入し、マスクに応用した。ダチョウ1羽からは、ウサギ800匹分の抗体が精製でき、2万枚分のマスクに使用できるとい

う。

昨年7月から1枚200〜450円で発売したところ、インターネットや電話での注文が殺到。中には一度に1万枚以上を発注する企業もあり、これまでに500万枚を出荷した。3月

末には700万枚に達する見通しで、今後の注文を見越して、3月上旬には同市幸袋にある工業団地「飯塚リサーチパーク」に本社を移転し、生産設備を増強する。

辻社長は「発売当初は大企業からの注文が多かったが、最近は地方の中堅企業からも相次いでいる。景気が悪いからこそ、新型の流行による企業活動への影響を最小限に抑えようと考えているようだ」と話している。